

ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート2023年5月18日

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要約、背景及びリンゴの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

2022/23販売年度(以下「年度」)のニュージーランドのリンゴ生産量は、2月に国内最大のリンゴ産地であり輸出産地であるホークスベイ/ギズボーン地方を襲ったサイクロンガブリエルによる被害のため、大幅に減少した。このサイクロンは収穫の開始時期に襲来し、何千ヘクタールもの園地が洪水で完全に流されるか、土砂で覆われた。被災地では、果樹やインフラを復旧しようとする取り組みがすでに進行中であるが、果樹産業への影響は数年にわたるものと予想されている。当事務所の2022/23年度のリンゴ生産量予測は45万3千トンに下方修正され、そのとおりの場合は2009/10年度以来の最低水準となる。

サイクロンが襲う前は、特にコロナ禍により果樹産業の労働力が厳しく制限された2回の困難なシーズンの後に見られた労働力確保の改善により、業界には楽観的な見方があった。過去2シーズンには労働力不足のため収穫されない果樹もあり、出荷量に大きな影響を与えた。

主産地であるホークスベイ/ギズボーン地方はサイクロンの影響を大きく受けたが、南島のネルソン地方などの他の産地では、2023年はほぼ最適な条件を享受している。それは前述のコロナ禍による制限後の海外労働力の復帰、収穫前の理想的な天候、及び過去数シーズンにわたって実施された多数の梱包施設を自動化するための投資等である。

ホークスベイ地方の果樹園へのより広範な影響の結果として、当事務所は、ニュージーランド産リンゴの世界市場への輸出の大幅な減少を予想しており、輸出量は2021/22年度よりも約21%少ない27万トンと見込んでいる。

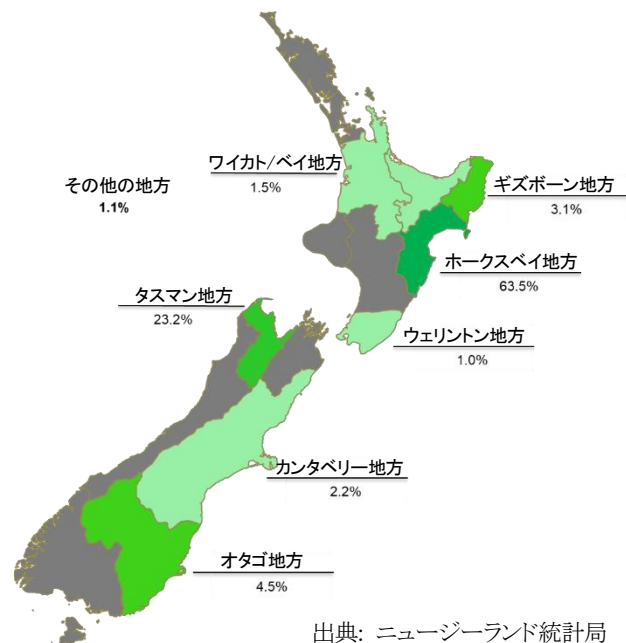
注: 販売年度は、1月1日から12月31日までの暦年と同じである(訳注: 2022/23販売年度は2023暦年と同じ)。このレポートの目的上、特記された場合を除き常に販売年度を参照されたい。栽培年度は7月1日から翌年6月30日までである。

このレポートで使用されるニュージーランドドル(NZドル)と米ドルの為替レートは1.00NZドル=0.62米ドルである。

背景

ニュージーランドは気候と土壌がリンゴやナシの栽培に適しており、世界最大のリンゴ輸出国の一つである。ホークスベイ地方、ネルソン地方、オタゴ地方中部などの主要産地では、十分な冬の寒さ、暖かい春、夏の長い日照時間、乾いた園地など、リンゴの栽培に必要な条件が整っている。これらの地域には果樹園を灌漑するための信頼できる水源もあり、その結果、ほとんどすべての商業的果樹園は灌漑に依存している。ニュージーランドには、リンゴとナシの産地の近くによく整備された港もある。収穫期は1月に始まり6月に終わり、リンゴの収穫の最盛期は3月から5月である。リンゴとナシの産地の分布を図1に示す。産地の大部分(果樹本数のほぼ3分の2)がホークスベイ地方にある。

図1 ニュージーランドのリンゴとナシの産地



<リンゴ>

栽培面積及び収穫面積

2022/23年度のニュージーランドのリンゴ栽培面積は横ばいと予想されるが、2月初旬のサイクロンガブリエルの影響を受けて、収穫面積の予測は昨年の10,300ヘクタールから今年は8,900ヘクタールと大幅に減少した。これはすでに1968年以来同国を襲った最も致命的な気象災害と見なされており、ホークスベイ地方とギズボーン地方が最も打撃を受けた。強烈な風と雨は大規模な地滑りと洪水を引き起こし、特にリンゴ産業では、広大な面積への土砂の流入に加えて、果樹園とインフラの広範な破壊をもたらした。(天気図、写真省略)

リンゴは、2023年に最も打撃を受けた輸出作物になるだろうと業界は予測している。前述のとおり、ホークスベイ地方とギズボーン地方の生産者はニュージーランドの生産量の約3分の2を担っており、昨年のリンゴ輸出量の58%はネーピア港から出航した。嵐の後の数週間に取りまとめられた報告書は、この地域の落葉果樹への被害として、4千ヘクタール近く(地域の総栽培面積の約半分)が影響を受けたと推定している。影響を受けたこれらの地域について、リンゴ業界の全国団体はそれらを3つのカテゴリーに分類し、被害の程度をランク付けした(表1)。カテゴリー1と2では、被害が非常に深刻であり、完全に破壊され、または土砂の流入により枯死が避けがたいため、これらの地域からの出荷は予想されない。カテゴリー3の地域はまだ収穫可能であるが、嵐の影響により生産量の減少や品質の問題が生じる。

業界のこれらの推定によると、地域の果樹の約4分の1が破壊され、別の約4分の1で今年の収量が深刻な影響を受けると見られる。しかし、嵐による被害を受けていない果樹園やインフラも多く、これらの地域では計画通りに収穫が続けられている。

表1 サイクロンガブリエルの影響を受けたホークスベイ地方の園地

ホークスベイ地方の被害評価	説明	推定面積 (ヘクタール)
カテゴリー1	完全に破壊され、果樹とインフラが失われ、全面的な再建が必要である。	840
カテゴリー2	完全に水没し、土砂が大量に堆積し、広範に果樹の枯死をもたらす。	1,260
カテゴリー3	果樹園は収穫率が低下する。浸水し、果樹は水浸しになっているが、果実の一部は回収可能である。	1,800

出典: ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(ラジオニュージーランドに対するリチャード・パンター会長の説明)

サイクロンガブリエルの影響を大きく受けた地域の生産者のために、ニュージーランド政府は合計7,400万NZドル(4,600万米ドル)を用意した。この資金は、果樹やブドウの木を救うための土砂の排除や柵の設置など、緊急の復旧作業に利用できると発表された。

政府のグラント・ロバートソン財務大臣は、サイクロンの被害額は100億NZドル(62億米ドル)以上と推定されると発表した。ニュージーランド保険協会(ICNZ)によると、サイクロンに関連する損害については、これまですでに、8億9千万NZドル(5億5,200万米ドル)に上る4万件以上の保険金請求がなされている。果樹やその他のインフラの大規模な破壊により、長年にわたってリンゴの生産に大きな影響が出ることは間違いない。

生産

当事務所は、2022/23年度の予測生産量を45万3千トンに引き下げる。これは、2021/22年度と比較して12%少なく、2009/10年度以来の最低水準である。サイクロンの前には、コロナ禍後に果樹園や梱包施設に労働力が戻ったため、今シーズンは前のシーズンと比較して非常に有望だと思われた。さらに、近年改植された果樹園が成園化していることから、総生産量がコロナ禍以前の水準に戻るとの期待もあった。

2022/23年度の国内生産に影響を与えている主な要因は次のとおりである。

－ サイクロンガブリエル

前項で述べたとおり、ホークスベイ地方及びギズボーン地方のニュージーランド産リンゴ生産にとって、この嵐の影響は甚大である。推定2,100ヘクタールの果樹園が流されるか、完全に土砂に埋まり、土砂で埋まった園地では土砂が撤去されない限り最終的に果樹が枯死することが予想される。さらに1,800ヘクタールが被害を受け、修復可能ではあるものの大幅な減収に直面していると業界は推定している。

－ 季節労働力

労働力確保の可能性は、常にこの国の園芸生産に大きな影響を与えてきた。2023年の収穫期には、認定季節雇用主(RSE)制度の下で労働力が完全に復帰した。これらの労働者は主に太平洋島嶼国から来ており、この労働力は、過去数年間はコロナ禍における国境制限のため非常に制約されてきた。2022年9月に2022/23年度の制限が、以前の1万6千人から1万9千人に緩和された。前述のとおり、サイクロンが襲う前には、収穫労働力の増加は今年のリンゴ作に関して大いに楽観主義を生み出していた。

－ 技術革新

過去数年間、多くの果樹園や梱包施設が、労働力をより効果的に管理する目的で自動化に多額の投資を行ってきた。意思決定と果実の品質管理を改善することを目的とする別の技術革新もある。梱包施設では、等級分けのためのカメラ技術と、梱包、積み上げ、パレット積みのためのロボット工学に投資している。生産者は近年、果樹園の作業をより簡単かつ効率的にするための基盤となるプラットフォーム技術に多額の投資を行っている。

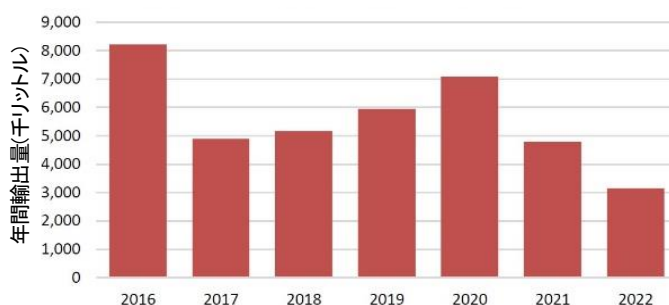
－ ラニーニャ現象の気象パターン

国立水大気研究所(NIWA)の予報によると、典型的なラニーニャ現象下の生育期間となった。これは、ニュージーランド各地で起こる対照的な異常気象によって特徴付けられた。すなわち、北島のオークランド、ノースランド、ベイオブプレントゥ及びホークスベイの各地方では、それぞれ記録上最も雨の多い夏となった。一方、南島では、オタゴ、カンタベリー(南部)、タスマンの各地方で非常に、または極度に乾燥した状態が発生したが、リンゴ生産者にとっては、ほとんどの果樹園が灌漑を利用するため、雨が少なく日照時間が長い理想的な栽培条件となっている。その結果、リンゴの総生産量に占める割合は(ホークスベイ地方と比べて)比較的少ないものの、ネルソン地方など南島の生産量は今年大幅に増加するものと予想される。

消費

当事務所は、予想生産量が大幅に減少したため2022/23年度の国内消費量を18万3,300トンとわずかに下方修正した。しかし、収穫労働力の増加により、リンゴの加工向け出荷量(国内消費量の内数)は依然として昨年よりも多いと予想される。昨年は収穫労働力が不足していたため、輸出品質の果実の収穫に重点が置かれ、加工に仕向けられたはずの多くのリンゴが樹上に残された。この加工用果実の大幅な減少は、ニュージーランド産リンゴ果汁の輸出量が数十年で最低の量に急減したことに現れている(図3)。今年は、十分な収穫労働力とサイクロン被害による収穫面積の減少により、加工用果実の収穫が増えるものと予想される。

図3 ニュージーランドのリンゴ果汁輸出



出典: Trade Data Monitor LLC

果汁用のリンゴの加工はすべて北島で行われ、輸出は主にネーピア港(70%)から積み出され、タウランガ港(27%)とオークランド港がそれに続く。通常、国内の生鮮リンゴの消費量は7万4千トンで、残りは加工に仕向けられる。ホークスベイ地方とギズボーン地方でのサイクロンの影響によって今年はリンゴの出荷量が減少するため、スーパーマーケットでの価格上昇が見込まれ、生鮮消費量がわずかに減少すると予想される。

貿易

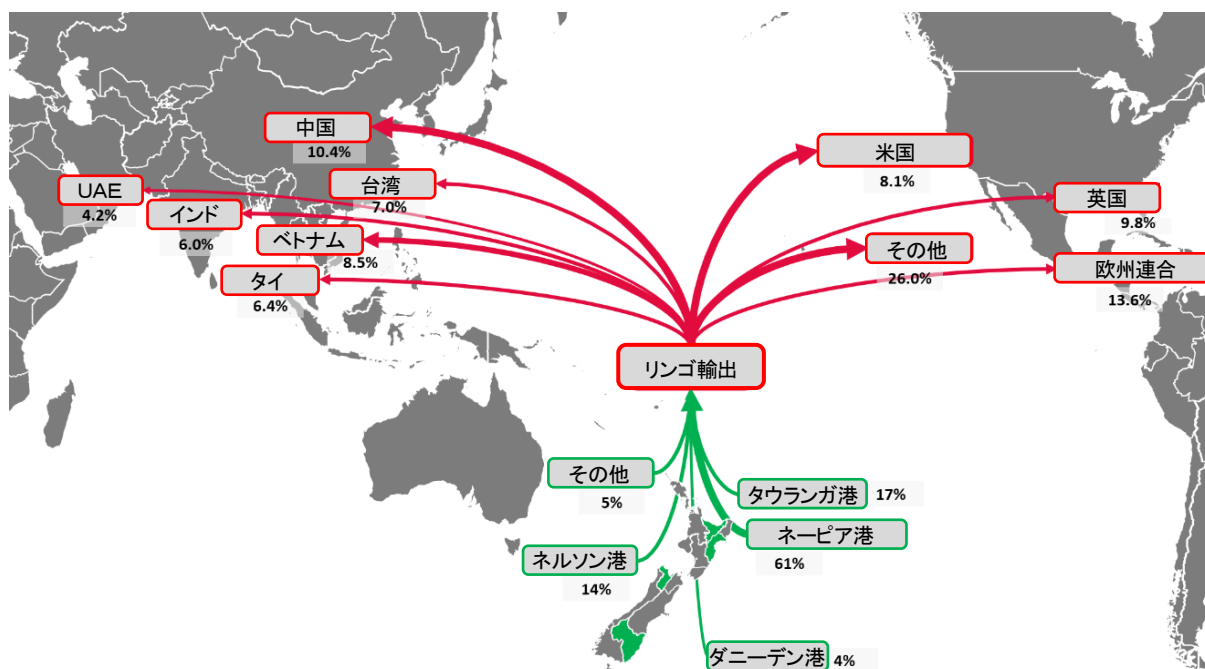
輸出

当事務所は、2022/23年度の予想輸出量を27万トンに下方修正し、これは2021/22年度より21%少なく、この10年以上で最低の水準となった。

2022/23年度第1四半期の輸出量は、昨年の同時期より10%少ないが、従来から第1四半期のリンゴの輸出量は総輸出量の15%を占めるに過ぎない。ニュージーランドのリンゴ輸出の最盛期は、4月～6月(63%を占める)である。

ホークスベイ地方での被害にもかかわらず、ネーピア港は操業し、世界市場への出荷を継続することができた。サイクロン発生後の最初の月である3月の輸出量は、前年の3月と比べて17%減となった。ネーピア港は通常、ニュージーランド産リンゴの総輸出量の61%を海外市場に出荷しており、タウランガ港が17%でこれに続く。南島のネルソン港とダニーデン港は、通常それぞれ年間輸出量の14%及び4%を占める(図4)。しかし、今年はこれらの地域のリンゴの収穫が好調であり、北島からの予想出荷量の減少と相まって、南島が2022/23年度の総輸出量に占める割合が高くなる可能性がある。

図4 ニュージーランドのリンゴ輸出(数量ベース5年平均)

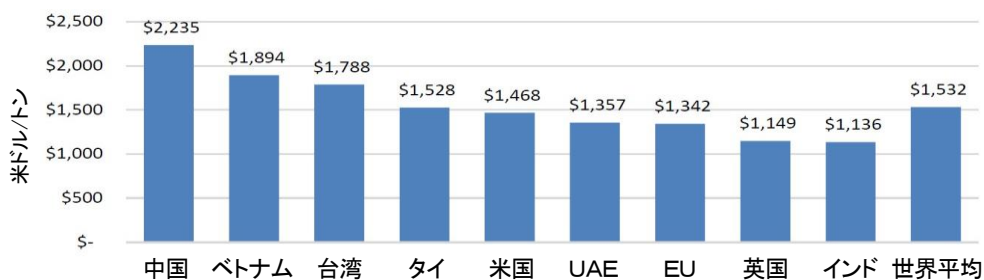


出典:トレードデータモニターLLC

ニュージーランドのリンゴ輸出量の減少が見込まれるため、プレミアム市場が優先されると予想される。これは、最大の輸出収入を確保し、今シーズン発生した生産量の減少を補うためである。中国、ベトナム、台湾、タイなどのアジア市場では、通常、ニュージーランドから最も値段の高いリンゴを輸入し、ヨーロッパとインドは最も値段の安いリンゴを輸入している。(図5)

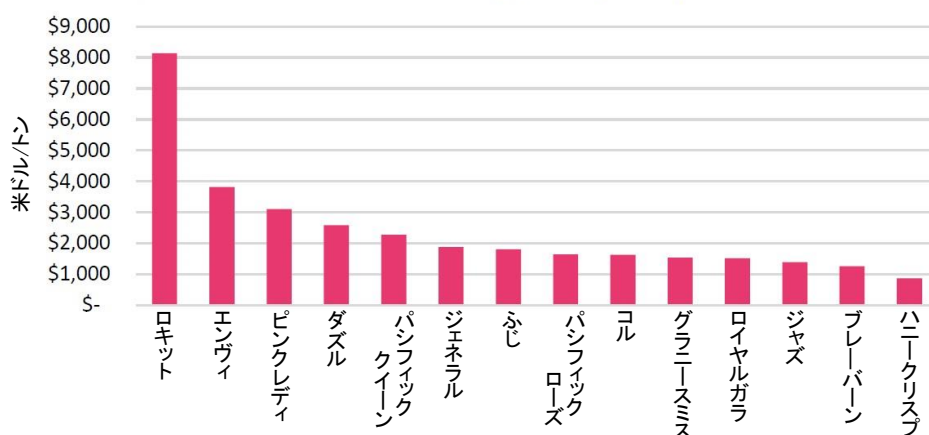
近年、プレーバーンなどの古くて価格の低いリンゴ品種を、特にアジア市場で求められている多収性リンゴ品種に置き換える戦略がある。この移行は、生産者がホークスベイ地方の破壊された園地を改植するのに伴って加速すると予想される。特に業界が今シーズンの問題と以前のコロナ禍による労働力不足の影響からまだ回復中であるため、改植で植えられる品種は、単位重量当たりの価格が高いもの(図6参照)になると予想される。したがって、全国の栽培面積では、ロイヤルガラやプレーバーンなどの古い品種が大幅に減少し、ロッキット、エンヴィイ、ダズル、ピンクレディなどの価格の高い品種が増加する可能性がある。

図5 ニュージーランド産リンゴの5年平均輸出単価(輸出先別)



出典: Trade Data Monitor LLC

図6 ニュージーランド産リンゴの2022年輸出単価(品種別)



出典: Trade Data Monitor LLC

輸入

ニュージーランドのリンゴ輸入量は非常に少なく、輸入先は主に米国である。この輸入は、国内供給が減少する収穫前の数か月間(11月～12月)にも常に消費者にリンゴを供給することを目的としている。当事務所は、国内生産量の減少に伴い、ニュージーランドの消費者向けにより多くのリンゴが調達されるため、輸入は300トンに増加すると予測する。2022年の輸入はわずか46トンに減少した。

表2 ニュージーランドの生鮮リンゴの生産、需要、供給

リンゴ(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～2021年12月	農務省公式	2022年1月～2022年12月	農務省公式	2023年1月～2023年12月	農務省公式
ニュージーランド		今回推計値		今回推計値		今回推計値
栽培面積	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
収穫面積	10,200	10,200	10,300	10,300	10,300	8,900
商業的生産量	535,000	535,000	510,000	510,000	570,000	450,000
非商業的生産量	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
生産量合計	538,000	538,000	513,000	513,000	573,000	453,000
輸入量	400	351	300	46	300	300
総供給量	538,400	538,351	513,300	513,046	573,300	453,300
国内消費量	180,600	182,551	173,300	172,246	188,300	183,300
輸出量	357,800	355,800	340,000	340,800	385,000	270,000
総仕向量	538,400	538,351	513,300	513,046	573,300	453,300

単位: ヘクタール、トン